

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆2040年度の民間投資250兆円、規制緩和で支援 政府の金融戦略

・政府は高市政権が掲げる人工知能(AI)や量子など17分野への投資を後押しする金融戦略を公表。設備投資など国内民間投資を2040年度までに250兆円にする目標を明示し、実現に向けて銀行の投融資規制の緩和などを進める。成長投資や企業の事業再編などを支え、金融機関や市場の機能強化を目指す。大型M&Aへの融資拡大をしやすくする。

◆世界の社債発行、1～6月に過去最大580兆円 AI投資に「過熱サイン」

・AI特需を背景にした企業の資金調達競争に過熱感が出ている。世界の社債発行額は1～6月に約3兆6813億ドル(約580兆円)と同期として2年連続で過去最高を更新。米テック大手の前のめりな投資への警戒感から、投資家はより高い利回りを求め始めた。世界の発行額は前年同期から10%増えた。新型コロナウイルス禍後の2022年1～6月から1.5倍に。

◆東京の1日のエアコン使用、世界12都市最長の14時間超 ダイキン調べ

・ダイキン工業は世界12都市のエアコン所有者1200人を対象にした調査結果を公表。暑い時期の1日あたりのエアコンの冷房の平均使用時間で、東京が14時間12分と最も長かった。約3割の人が「ほぼ終日」運転していると回答。ダイキンが世界11カ国・12都市の20～60代のエアコン所有者計1200人を対象に、5月下旬から6月上旬にかけインターネット調査。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆NEC、水道管の漏水を音で検知 7月から川崎市に導入

・水道管が漏水している場所を音で検知するサービスの提供を始めた。7月から川崎市上下水道局で導入。口径の大きな水道管の漏水をいち早く検知し、断水や道路の陥没といった事故の発生防止につなげる。水道管のバルブなどにセンサーとデータ記録装置を複数設置。2点間センサーに水漏れ音の振動が届く時間の差を計ることで特定。

◆白物家電出荷額、1～6月は過去最高の1兆4350億円 エアコン好調

・日本電機工業会(JEMA)は1～6月の白物家電の出荷額が1986年以来過去最高の1兆4350億円だったと発表。これまでの最高額は1兆3671億円(1991年)で、5%上積みした。猛暑が常態化する中、好調のエアコンが全体を押し上げた。1～6月のエアコンの出荷額は前年同期比21.7%増の6102億円、出荷台数は19.4%増の652万7000台だった。

◆6月の塩ビ樹脂出荷5%減 輸向の回復遅れ

・塩化ビニール樹脂の生産企業などで作る塩ビ工業・環境協会は6月の塩ビ樹脂出荷数量が前年同月比5.1%減の10万2411トンだったと発表。約4～5割を占める輸向の回復が鈍かった。塩ビ樹脂の国際市況は、原料価格の下落や需要低下で落ち込み。横田浩会長は「足元では1トン当たり約800ドルで取引され、楽観はできない」と危機感を示した。

《 注目商品 》

■パナソニック、自宅で“ととのう”入浴スタイル

・自宅で気分を切り替えるための新たな入浴スタイル「リフレッシュ・スイッチstyle」の提案を開始。「お風呂ソムリエ」による入浴スタイル提案を本格展開。約42℃の温シャワーと約36℃のぬるめ浴(不感温浴)を組み合わせた「チフレッシュ浴」で自宅で手軽に気分転換を図る。



■パーパス 業務用生ごみ処理機「PSK-23W」

・電気式生ごみ処理機のモデルチェンジ品として、デザイン性・省エネ性・操作性を追求した新機種となる「PSK-23W(エコドライサイクロン)」を発売。(外観のコンパクト化や構造の刷新を行い、環境性能と使い勝手を大幅に向上させた次世代モデル)。



■ノーリツ 業界初となる屋内設置形の高効率50号業務用ガス給湯器

・業界初となる屋内設置形の高効率50号業務用ガス給湯器(エコジョーズ)「GQ-C5052WZDF」を9月1日より発売。給湯能力16号、24号、50号のラインアップで高効率ガス給湯器を屋内・屋外ともに設置することが可能となる。

